

### 第14戦で嵯峨宏紀が2位獲得、シリーズランキングも4位へ 千代勝正も、表彰台まであと一步の4位に それぞれの走り、集大成に向けて大前進!

アチーブメント全日本F3選手権第13戦&第14戦(第7ラウンド) スポーツランドSUGO (3.704km)

2010年、ル・ポーセモータースポーツが挑むレースカテゴリーのひとつ、全日本F3選手権の第7ラウンド/第13戦&第14戦が9月25日(土)、26日(日)の両日、宮城県・スポーツランドSUGOで開催された。擁するドライバーは、Cクラスで「DENSO・ルポーセF308」を駆る嵯峨宏紀。そしてNクラスで「BPダイシンルポーセF305」を駆る千代勝正である。つい数日前まで猛暑が続いていたがこのウィークエンドはすっかり秋模様。気温も大幅に下がって、ガラリと変わったコンディションの中でのレースとなった。残る戦いも、あとわずか。チームもドライバーも相性のいいSUGOで、大活躍が期待された。



#### 予選

9月25日(土) 天候/コース状況:曇り/ドライ

第7ラウンドの舞台、スポーツランドSUGOはアップダウンに富んだ、テクニカルレイアウトであることが何よりもの特徴。ある意味、鈴鹿サーキットの要素がギュッと凝縮されている、ということもでき、セッティングにも相通じる部分が多い。9月も下旬に入って、ようやく秋の気配が漂い始めたこともあり、持ち込みセットは鈴鹿での開幕ラウンドがベースとされた。

金曜日最初の練習走行では、嵯峨がトップタイムをマーク。2回目にもタイムアップを果たす。千代も同様に、2回目でリヤの限界を高めていくことでタイムを上げ、トップと僅差の2番手に。本戦に期待を大いに抱かせた。

今回はサプライヤーの都合によってタイヤの搬入が遅れ、ニュータイヤを装着するのは最初の第13戦予選が初めてとなった。

普段なら予選を時間いっぱい使わず、しばらくピットで待機してからコースインするが、今回は台風接近の影響で、いつ雨が降り出してもおかしくない空模様だったため、2台をすぐにピットロードエンドに送り出す。実際、開始直前には霧雨が舞ったのだが、始めてみるともちそうな雰囲気だったことから、路面温度も20度を切っていたこともあって、これまでのラウンド以上にタイヤへの熱入れを入念に行う。

嵯峨は4周目に1分15秒台に入れた後、そのままアタックを続けて2周後には14秒597をマーク。一時はトップに立って、さらにタイムを詰めようと攻めていったが、次の周でオーバーラン。仕切り直す間に逆転を許したとはいえ、トップからわずかコンマ08秒という超僅差で、4番手につけることになった。

一方、千代もまた4周目からアタックを開始し、1周ごとタイムを短縮していくが、細かい詰めに留まり、今ひとつ決め手を欠く状態。8周目に16秒453をマークして6番手に。そのため、2回目の第14戦予選に向け、千代のリクエストどおりリヤまわりのセッティングを大幅に改めることとなった。

その第14戦予選においても、嵯峨の勢いは留まることを知らず。同じように4周目に15秒台へ突入した後、14秒866、14秒495と好タイムを連発し、2番手につけてフロントローに並ぶこととなった。

千代も再び周回を重ねるたびタイムを縮めていくが、やはり大幅には短縮ならず。7周目に記した16秒222で、引き続き6番手からのスタートとなった。

#### 決勝レース第13戦

9月25日(土) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

予選が行われた頃と比べると、上空には雲の切れ間も見え始めて決勝のスタート進行が近づくにつれ、淡い日差しがコースに差し込むようになる。ただし、気温や路面を大幅に上げるまでにはいかなかった。

好スタートを切った嵯峨は、予選3番手の国本雄資(TOM'S)に迫っていったが、強烈なブロックを受けてフロントウイングにタイヤを当てられてしまう。曲がった翼端板が抵抗となって空力を乱したうえに、コックピット内部の部品が落下し、足元に絡みついて4周目のヘアピンでコースアウト。修復するため、6周目にピットイン。その間に6番手にポジションダウンするも、コース復帰後はファステストラップを出しに行こうという、気迫のこもった走りを見せ、5番手のマシンがリタイアした事で5位入賞を果たす事となった。

千代はオープニングラップのヘアピンで、佐藤公哉(NDDP NOVA)との接触もあったが5番手にひとつポジションをアップ。その後、一時は3秒近くに及んだ三浦和樹(HFDP RACING)との差を次第に詰めていく。ラスト3周で1秒を切って背後にまで迫ったものの、コンマ4秒差となったところで無情にもチェッカーが。

追いつけていく最中のタイムは極めて安定しており、何より最後まで希望を捨てずに走り続けたのは、大いに評価されるポイント。また、ドライビングを自らアジャストできたことは自信にもなっただろうし、今後につながるは間違いなかった。



#### 決勝レース第14戦

9月26日(日) 天候/コース状況:晴れ/ドライ

台風一過で日曜日のSUGOは、まさに秋晴れというに相応しい、さわやかコンディション。気温も20度をわずかながらも超えて、ようやく正しい秋の天候になったという印象。上がった温度に合わせるべく、タイヤの内圧をしっかりと調整するとともに、空力セットにも変更を施した。

決勝レース第14戦に、嵯峨はフロントローからスタートを切る。スタートを決めて、かつ序盤に勝負をかけられるよう、タイヤにしっかりと熱を加えるべく直前のレコニザンストラップを通常より1周多く走って、より万全を期すことに。

これが功を奏し、ポールシッターの山内英輝(ハナシマレーシング)に優る好スタートを切るが、接触寸前のブロックによって逆転できず。とはいえ、しっかりと2番手は守ってオープニングラップをクリア。背後につけたラファエル・スズキ(TOM'S)、国本を寄せつけなかったばかりか、序盤のうちに差を広げることにも成功する。

そして、最後まで一進一退の攻防が続くも、嵯峨は惜しくも2位でゴール。今季3度目の表彰台を獲得し、シリーズランキングもひとつ上げて、4位につけることとなった。

一方、千代はスタートでポジションキープを遂げた後、ヘアピンで小林崇志(HFDP RACING)をかわして5番手に浮上。その後は前に佐々木大樹(NDDP NOVA)、後ろに小林を置いて激しいバトルを繰り広げた。小林のチャージをモノとせず、逆にプレッシャーをかけ続けていた佐々木が22周目の最終コーナーでコースアウト。



これで4番手に浮上したばかりか、一時4秒近くあった3番手のギャリー・トンプソン(KCMG)との差も最後は1秒ほどに縮めていた。今回いちばんの収穫はセッションごと、さらに細かく言えば周回を重ねること、自ら走りをアジャストすることで内容を高めていったことである。

続いての舞台は九州に移し、オートポリスでの最終ラウンドとなる。ドライバーのふたりのみならず、チームにとっても得意とするコースで、しかも成績、内容ともに右肩上がり。今年の集大成となる走りを期待したい。

Driver  
**嵯峨宏紀**  
Koki SAGA  
COMMENT

土曜日のレースは少し残念な結果になってしまいましたが、日曜日の第二レースでは結果を残すことができ少しホッとしています。このコースはスタートが重要ですが、逆にポールからスタート出来ていれば...と思う部分もあるので、次のレースでは予選での更なる上位獲得がテーマです。

Driver  
**千代勝正**  
Katsumasa CHIYO  
COMMENT

今回のレースを振り返ると、予選がすべりだったと思います。金曜日から良い方向性でマシンセットを進める事が出来、自分としても良い手応えは感じていたのですが、ほとんどタイム差のない今回の予選の中で、6位に沈んでしまった事で、両レースとも苦戦を強いられてしまいました。2レースとも結果的には順位を上げる事は出来、ペースも悪くなかった中で、予選でのコンマ数秒の違いが大きいという事を痛感し、また課題も見つかった週末だったと思います。

チーム監督  
**坪松唯夫**  
Tadao TSUBOMATSU  
COMMENT

コースの特性からドライバーにもクルマにも相性が良いことは分かっていただけに、細かい詰めが必要になった。嵯峨は予選では僅差でポールポジションを逃してしまったが第14戦の決勝では路面温度が上昇した中でもクルマのバランスも良く、ドライバーがそのポテンシャルを十分引き出したと思う。千代は練習走行、予選、決勝と異なるセッティングのクルマで戦うことになり、一発のタイムが伸びず、私が予想した状態よりも厳しい結果となってしまった。

#### 第13戦 決勝

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	チーム
1	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S
2	5	山内英輝	ハナシマレーシング
3	1	国本雄資	PETRONAS TEAM TOM'S
4	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING
5	62	嵯峨宏紀	DENSO Team Le Beausset

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	チーム
1	37	蒲生尚弥	TOM'S SPIRIT
2	22	佐々木大樹	TEAM NOVA
3	8	小林崇志	HFDP RACING
4	7	三浦和樹	HFDP RACING
5	63	千代勝正	DENSO Team Le Beausset

#### 第14戦 決勝

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	チーム
1	5	山内英輝	ハナシマレーシング
2	62	嵯峨宏紀	DENSO Team Le Beausset
3	36	Rafael Suzuki	PETRONAS TEAM TOM'S
4	1	国本雄資	PETRONAS TEAM TOM'S
5	2	Alexandre Inperatori	TODA RACING

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	チーム
1	37	蒲生尚弥	TOM'S SPIRIT
2	23	佐藤公哉	TEAM NOVA
3	20	Gary Thompson	ACHIEVEMENT by KCMG
4	63	千代勝正	DENSO Team Le Beausset
5	8	小林崇志	HFDP RACING

#### シリーズランキング

Cクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	1	国本雄資	137
2	36	Rafael Suzuki	78
3	12	関口雄飛	69
4	62	嵯峨宏紀	46
5	2	Alexandre Inperatori	44

Nクラス			
順位	車番	ドライバー	ポイント
1	8	小林崇志	114
2	37	蒲生尚弥	109
3	63	千代勝正	55
4	23	佐藤公哉	43
5	20	Gary Thompson	30

TOYOTA

Racing Development  
**TRD**

**DENSO**

**NPR**

**TPR**

Data And Vision 株式会社 **ダット**

**ETICS**

**豊田織機**

**GREEN TEC**

**Ars**  
ARU SEISAKUSHO CO., LTD

**AJ AISIN AW**

**NSK**

**MARUYASU**

**大豊工業**

**東郷**

**TAMACHI**

**AISIN**

**TRD**

**BEHR**  
Behr-Toyo Engine Cooling Systems

**名古屋トヨペット**

**icode**

**PERFORMANCE FRICTION BRAKES**

**BESTEX**  
High Performance Racing Suspension Service

**ODYSSEY**

**elf**

**TAKATA**

**craft square**

**RAYS ENGINEERING**

**BILLION**

**UP START**

**IDC SYSTEM AG**

**SEV**

**wax graphics**